

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県立豊田東高等学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
中学校 中高一貫教育 高等学校
教員養成 技術/職業教育
特別支援学校 その他 ()

所在地 〒471-0811
愛知県豊田市御立町 11 丁目 1 番地

E-mail : toyotahigashi-ko@pref.aichi.lg.jp

Website : http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp/

児童生徒数 : 男子 97 名 女子 613 名 合計 710 名
児童・生徒の年齢 15 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

3. 活動内容

愛知県立豊田東高等学校（総合学科）は、将来も継続して自分と地域の環境問題等を考え、持続可能な社会の担い手として社会に貢献できる生徒の育成を目指し、E S Dに取り組んでいる。E S D「持続可能な開発のための教育」を通して地域の人々、社会の人々、海外の人々との交流が活発であり、人と人とのつながりの中で相手を理解し、自分の考えを深めている。また、地域社会や世界で活躍する外部講師の方の講演を通して、視野を広げ、多面的な物の見方ができるようになってきている。

本校では、今年度も「環境教育」、「国際理解教育」、「地域連携教育」を3つの柱としてE S Dに取り組んだ。これらの実践は、個別の分野にとどまらず、相互に関連し合っており、今後よりいっそうの内容の充実に努めていきたい。

① 環境教育活動

1 学年「産業社会と人間」の授業で 地域環境研究として、地域環境研究セセラギプロジェクトを実施した。事前に講演会にて、矢作川の現状について講演していただき、後日野外活動を実施した。生徒たちは、ベンチ製作、大木の伐採、魚道の作成、ツバキの実、クルミの収集、水生生物の調査、カメの調査、セセラギ自噴池の観察などグループに分かれて活動した。その後の授業において、グループで活動報告書を作成し、指導していただいた矢作川森林塾を始め、大学、各研究機関へ提出した。

今年度も、カメの調査を行い、カメの生態や、急増し続ける外来種ミシシippアカミガメについての講義を受け、生徒達は興味関心を抱きながら、環境問題についての考えを深めた。今年度は、風が強い中での作業となり、予定されていた作業・研究が実施できず、講義を受けるのみのグループがあった。来年度は、予備日を設定し、円滑に作業が実施できるようにする予定である。今後も御立公園の整備・研究を通して継続的に地域環境研究を進めていきたい。

② 国際理解教育活動

国際理解教育としては、オーストラリア姉妹校への訪問、台湾修学旅行、アジア各国の環境保全団体オイスカ農業実習生と現地や学校内での交流を通して異文化理解を深めた。活動を通してもっと相手を知りたい、自分や日本のことを理解してもらいたいと異文化理解への興味関心を高めることができた。また海外で活躍されている外部講師による国際理解講演会を通して、日本人としての国際貢献についての考えを深め、多面的なもの見方ができるようになった。

③ 地域連携に関する活動

地域連携教育としては、商店街や交流館などで地域の人々との活動を通して交流を深め、地域に根ざした活動を行うことができた。部活動の生徒や各プランの生徒による作品提供や演奏会の実施、八日市ボランティア等の地域貢献活動を実施した。今年度は新たな産学連携として道の駅「どんぐりの里いなぶ」と本校調理・栄養プランの生徒が、「里芋コロッケ里ちゃん」を共同開発し、大好評であった。

これらの地域連携活動は、自分たちの学びの成果を発表する絶好の機会であり、地域の方々から感謝の言葉をいただくことで、更なる学びへの意欲につながった。



① セセラギプロジェクト
樹木の間伐



① セセラギプロジェクト
ベンチの制作



②オーストラリア
パスコベール女子高校訪問



④豊田市市長を招いての
里いもコロッケ里ちゃん試食会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2、2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|-------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・ 矢作川研究所作成の外来生物に関する資料・ 「台湾まるごとガイド」(台湾観光局) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

1年生は週2時間の「産業社会と人間」、2年生は週1時間の「総合的な学習の時間」、3年生は週に2時間の「総合的な学習の時間」を中心に、「環境教育」「国際理解教育」「地域連携」を3つの柱に活動している。1年生の中心になる活動は地域の環境研究であるが、地元の自治体や大学、またNPO法人などの協力を得て、フィールドワークを含めた様々な活動を、毎年継続して行う中で、前年度の踏襲ではなく、必ず新たな工夫を加えるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内分掌の「総合学科推進部」を中心に、年間指導計画を作成し、各学年別に主担当者が週に1回の打合せ会を行っているほか、月2回を基本に学年会での打合せを行っている。また生徒に対しても、毎年夏休みの出校日に管理職が、生徒の理解をさらに深めるために、ユネスコスクールとしての本校の取組の歴史や意義について講話しているほか、夏休みの中学生体験入学時にも、本校がユネスコスクールとして活発に活動していることを本校教諭が紹介している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内の学校評価委員会や、外部の委員を招いた学校関係者評価委員会による評価を毎年行い、高い評価を得ている。特に地域との積極的な連携により、生徒の主体的な学習活動やボランティア精神の育成、また3年間を見通した指導計画により、高いプレゼンテーション能力をもつ生徒の育成が行われていることなどが評価されている。今後はさらに地元の小中学校との連携への要望も寄せられている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校外の研修会での活動報告のほか、学校のホームページや広報紙、校誌に本校の取組内容を掲載し、随時発信している。また、毎年2月中旬に、保護者や地域の中学校や高等学校の教員、学校評議員などを招いて行う総合発表会において、各教科科目や「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」特別活動におけるESDの活動報告を行っている。これらの広報活動により、学校訪問や地域の団体から交流の依頼があり、本校の活動の広がりにつながっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「国際理解教育」においては、公益財団法人オイスカ中部日本研修センターの研修生との交流、また「環境教育」においては、豊田市矢作川研究所、国土交通省中部地方整備局、NPO法人矢作川森林塾などからの指導者の派遣など、多くの機関、多くの人々との協働、交流を行っている。さらに「地域連携教育」においては、産学連携での商品開発や地域の商店街の活性化のための連携活動を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛知県ユネスコスクール交流会において代表生徒が活動報告を行った後、他校の生徒と交流し、お互いの活動についての理解を深め、今後の活動の参考になる多くの気づきを得ることができた。また教員も、愛知県ユネスコスクール指導者研修会での活動報告や、東海地区ユネスコスクールフォーラムへの参加を通して多くの学校と交流することができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

毎年2月に、総合学科としての1年間の学びを発表する「総合発表会」の中で、本校のESD活動についての発表も行っているが、今年度は新たに地区の中学2年生の保護者にも案内をしたところ、多くの参観者があり、アンケート結果からも、高い評価を得たことをうかがうことができた。本校の活動が、さらに多くの人に理解されたと考える。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

1年生は「環境教育」を柱に、「地域環境教育」（セセラギプロジェクト）を継続発展させていく。来年度は荒天による中止に備え予備日を設定するほか、連携している機関との協働関係をさらに深めていきたい。

2年生は「国際理解教育」を柱に、海外修学旅行（台湾）に向けての、調べ学習や講演会を通して学習を深めていく。

また、地域連携や産学連携については、新たな商品開発等も視野に入れ、地元の商店街のイベントでのボランティア活動等とともに、継続発展を目指す。